

市の文化

第 20 号

令和7年3月31日 編集・発行 佐野市文化協会



主な記事

- 会長挨拶・市長ご祝辞 (P2)
- 第9回 佐野市文化振興大会 (P3)
- 総会・団体情報交換会
・市長との意見交換会他 (P3)
- 文化協会20年の歩み・計報 (P4,5)
- わたしたちの文化活動 (P6~9)
- 両毛五市文化協会交流事業
・栃木県文化振興大会 (P9)
- トピックニュース・佐野の文化人 (P9)
- コラム・佐野の名所旧跡案内 (P10)
- 加盟団体名簿・役員 (P11)
- 賛助会員紹介 (P12)



文化協会設立20周年記念 佐野市文化振興大会式典（令和7年2月22日）

大会宣言（抜粋）

- 1つ 伝統文化、伝統工芸への理解を図るための機会を設けます。
- 1つ 芸術文化の推進を図る団体との意見交換の場を設けます。
- 1つ これからの文化環境の充実には何が必要なのか考えます。
- 1つ 発表機会の充実や施設の利用促進を図ります。

本日、第9回佐野市文化振興大会を開催するにあたり、以上のことを誓い、ここに宣言いたします。



文化協会設立二十周年を迎えて

佐野市文化協会 会長 廣 瀬 裕

月日の流れは速いものです。平成17年2月末に1市2町の合併が行われ、それを機に文化協会も統合して本年度20周年を迎えました。合併に関わられた諸先輩のご苦労は大変なものであったと推察いたします。また合併後、大きく変わった文化協会を今日までまとめ発展に努めてこられた歴代の会長をはじめ多くの方々のご尽力に感謝申し上げます。

本年2月22日に設立20周年を記念した「第9回佐野市文化振興大会」―文化そして未来へ―をテーマに掲げ、田沼中央公民館大ホールにおいて、たくさんのご来場者のもとに開催しました。インダストリー・ブラスアンサンブルの演奏で幕開けし、記念式典において地域文化及び本会の振興及び発展に寄与された方々に対し文化賞、功労賞の表彰を行い、本会の発展に貢献された方々に感謝状を贈呈しました。また、基調講演では地域

の歴史・文化に造詣の深い佐野市教育委員会教育長津布久貞夫氏によるお話しがあり、柳氏・海老原氏の対談、さの演劇塾の朗読劇で幕を閉じました。

本協会は、設立以来これまで文化振興大会の開催や各部門の活動の推進、さの文化の発行、芸術文化ふれあい事業など時代に応じた活動をしてまいりました。協会の運営に大きな支援、協力いただいている佐野市、サポートいただいている賛助会員の皆様には感謝申し上げます。

現在、会員減をはじめ諸課題に対応するため協会をあげて取り組みを行っております。その一環として昨年度末にリニール工事例館前の文化会館で「さの文化の祭典」を開催しました。たくさんの方々の皆様に会場いただき、大いに元気をいただきました。

これからの協会の20年、元気に取り組んでまいります。



設立二十周年にあたって

佐野市長 金子 裕

佐野市文化協会が設立20周年をお迎えになりますことを心からお祝い申し上げます。貴会は、平成17年の新佐野市誕生と時を同じくして設立されて以来、廣瀬裕会長をはじめ、歴代会長の方々を先頭に、本市の文化芸術活動の中心的な役割を担ってこられました。特に部門ごとに開催される佐野市民文化祭は、市民が年間を通して文化芸術に親しめる催しとなっており、会員の皆様の熱心な活動に深く敬意を表するところでございます。

文化芸術活動の拠点として、これまで以上に活用いただければ幸いです。

文化芸術は人々の心を豊かにしてくれる、かけがえないものです。皆様の活動は、市民が文化芸術に触れ、親しみ、自らの活動につなげる機会となります。少子高齢化社会の進行や新型感染症の流行拡大など、時代の変化が著しい昨今ですが、工夫を凝らした活動を継続していただき、地域が一体となつて本市の文化芸術を豊かに育むために、会員お一人お一人が牽引役となつていただきますことをお願い申し上げます。

結びに、貴会の益々のご発展と会員の皆様のさらなるご活躍をご祈念申し上げます、お祝いの言葉いたします。

さて、昭和54年の開館以来、皆様に慣れ親しまれてきた佐野市文化会館は、令和6年度からリニール工事のため休館しております。休館前には、貴会による総合文化祭「さの文化の祭典」が盛大に開催され、安全で快適な施設を目指すリニールへのはなむけとなりました。令和9年4月に装いも新たに開館した折には、

佐野市文化協会設立20周年記念 第9回佐野市文化振興大会

肌寒い天候となった令和7年2月22日（土）に佐野市田沼中央公民館で第9回佐野市文化振興大会（文化として未来へ）が開催されました。12時30分に、インダストリーブラスアンサンブルによるオーブニング公演が始まりました。楽しい器楽演奏で客席の大勢の皆様も笑顔となりました。

記念式典となり、廣瀬裕会長が、当協会が設立20周年となったことへの感謝を述べました。

今回は、長年にわたり茶華道協会の発展に貢献された拜崎宗幸氏と長く田沼太鼓の演奏技術の向上等に尽くされた野尻真弓氏のお二人が文化賞を受賞されました。

また、功労賞に四家汐犀氏と諏訪一男氏の両人が受賞されました。

さらに佐野桜の育苗に長年携わって頂いた永澤一男氏や、篠崎貸衣裳店様他9名の方々に感謝状が贈られました。

そして、受賞者を代表して拜崎宗幸氏が謝辞を述べられました。

この後来賓の金子裕市長、川嶋市議会議長、横田県議会議員からご祝辞を頂きました。

最後に廣瀬会長が力強く大会宣言を決議し採択されました。

次に基調講演となり、津布久貞夫教育長から、「佐野の民俗文化」と

して、津布久氏自身で調査された旧葛生町仙波地区の食文化のお話がありまして、ミミウドンやシモツカレなど身近な食べものことなど興味深い講話でした。



その後記念講演がありました。第一部は栃木県伝統工芸士の柳誠参与と海老原副会長による「佐野生人形と文化協会」を

テーマとした対談です。柳さんの海外や全国での活動状況が報告され、対談の終わりに、観客の呼び込みなどの口上が披露され会場が沸きました。

第二部は、さの演劇塾の会員が、宮澤賢治の「雨ニモマケズ」を、映像と音楽を背景に堂々と朗読されました。

そして村田副会長が閉会を宣言して、盛会裏に終了しました。

（海老原脩治）

受賞者

文化賞	拜崎 宗幸 様	野尻 真弓 様
功労賞	四家 汐犀 様	諏訪 一男 様
感謝状贈呈者	永澤 一男 様	篠崎貸衣裳店 様
	高橋 宗幸 様	佐野写遊 様
	呑竜幼稚園 様	
	福田建設株式会社 様	
	村極石灰工業株式会社 様	
	エヌケーケー株式会社 様	
	田部井盛道 様	
	吉澤石灰工業株式会社 様	
	田中税理士法人 様	
	株式会社丸山工芸社 様	（順不同）

令和6年度

総会が行われました

今年度は田沼中央公民館で5月24日に開催し、金子市長、川嶋市議会議長、岡部県議、横田県議他のご臨席を賜りました。

議長に大芦理事（書道部門）を選出し、令和5年度の事業報告と決算、令和6年度の事業計画・予算について承認を得た後、役員として次の方を選出いたしました。

常任理事 浅野 良一 様
参 与 塚田 良雄 様

（佐野市立小・中学校長会長）

参 与 高橋 利彰 様

（佐野市産業文化スポーツ部長）

団体情報交換会の開催

団体代表者を対象とした情報交換会を9月13日に開催し26名が参加。4部門からイベントの集客率を向上させる工夫や内容の充実などの紹介があり、質疑応答の後に活発な議論がなされて充実した会議となりました。



市長との意見交換会

・提言書提出

10月10日に金子市長、津布久教育長、市幹部との意見交換会を実施し、協会から概況説明と課題についてご説明させていただきました。市長からは施設の改善の取り組みについてご説明がありました。3月19日には、佐野市の文化振興に関する提言書を提出させていただきました。今後も行政と文化協会が協力し合って佐野市の文化発展に寄与して参ります。

佐野市文化協会 20 年のあゆみ

年 度	主な活動内容	表彰・トピックス・他文化団体との交流
平成 17 年 (2005 年) ～ 平成 20 年 (2008 年) 初代会長 勅使川原 懐	○ 佐野市文化協会設立 4 月 1 日 団体数 124 部門数 23 会員数 2,500 名 シンボルマークは安藤勇寿 氏 ○ 「さの文化」創刊 題字は勅使川原会長 ○ 環境文化推進事業「芝桜の配布」 ※現在は部門として存在しない環境(ハーブ会)、 拓本、奇術などの部門がありました。 ○ 第 1 回 佐野市文化振興大会(文化会館) 11 月 9 日 講演「佐野と司馬遼太郎」(司馬遼太郎記念館館長 上村洋行 氏) 	○ 第 30 回 栃木県文化振興大会(佐野市) 12 月 7 日～11 日 ○ 第 8 回 両毛五市民謡民舞交流大会(足利市) ○ 第 12 回 両毛五市民謡民舞交流大会(太田市) ○ 第 13 回 両毛五市民謡民舞交流大会(太田市) ※両毛五市の交流が活発に行われていました。現在も続いています。  ○ 第 13 回 両毛五市民謡民舞交流大会(佐野市文化会館) ○ 文化 3 団体共催事業※ 11 月 12 日 「牧歌舞伎と鐘塚宮比講神楽」 ※佐野市文化協会・佐野ユネスコ協会・佐野市民文化 振興事業団
	○ 「佐野桜」の配布普及活動の開始	○ 第 10 回 両毛五市絵画展(葛生あくとプラザ) 12 月 5 日～9 日
	○ 第 2 回 佐野市文化振興大会(文化会館) 11 月 19 日 講演「戦国時代の佐野～唐沢山城の攻防戦」 (静岡大学教授 小和田哲男 氏)	○ 文化 3 団体共催事業 オペラ「スザンナの秘密」 12 月 20 日
平成 21 年 (2009 年) ～ 平成 24 年 (2012 年) 第 2 代会長 鈴木 太一	○ 佐野桜を市に寄贈 ○ 第 3 回 佐野市文化振興大会(葛生あくとプラザ) 講演「大地にすわって」 1 月 15 日 (東北芸術工科大学学長 松本哲男 氏)  ○ 第 1 回 佐野市児童・生徒写生大会(運動公園) 12 月 4 日 ○ 第 2 回 佐野市児童・生徒写生大会(運動公園) 10 月 29 日 ○ 東日本大震災義援金を市へ贈呈 ○ 第 4 回 佐野市文化振興大会(文化会館) 1 月 19 日 講演「金子みすずの生涯」(講談師 一龍齋春水 氏) ○ 第 3 回 佐野市児童・生徒写生大会(嘉多山公園) 11 月 10 日	○ 文化 3 団体共催事業「岩舟武蔵太鼓の饗宴」 12 月 20 日 ○ 第 17 回 両毛五市民謡民舞交流大会(葛生あくとプラザ) 11 月 22 日
	○ 第 1 回 佐野市児童・生徒写生大会(運動公園) 12 月 4 日	○ 第 18 回 両毛五市民謡民舞交流大会(葛生あくとプラザ) 11 月 13 日
	○ 第 2 回 佐野市児童・生徒写生大会(運動公園) 10 月 29 日 ○ 東日本大震災義援金を市へ贈呈	○ 第 15 回 両毛五市美術展(佐野市文化会館) 12 月 5 日～9 日 ○ 交流会(越谷文化連盟) 10 月 12 日
平成 25 年 (2013 年) ～ 平成 28 年 (2016 年) 第 3 代会長 田沼 清	○ 第 4 回 佐野市児童・生徒写生大会(嘉多山公園) 11 月 9 日 ○ 第 5 回 佐野市児童・生徒写生大会(城山公園) 11 月 8 日 ○ 第 5 回 佐野市文化振興大会 2 月 14 日 文化賞 太田 章 氏 京谷博次 氏 ○ 佐野市文化協会設立 10 周年記念式典 講演「毎日トクしている人の秘密」(精神科医 名越康文 氏)  ○ 会員研修会(郷土博物館) 10 月 20 日 ○ 市庁舎竣工記念佐野桜植樹 11 月 17 日  ○ 佐野市へ熊本地震義援金贈呈 ○ 第 6 回 佐野市文化振興大会 2 月 18 日 文化賞 飯田真二 氏 林 花香 氏 安原高次 氏 須藤玉宝 氏 講演「真田丸の世界と佐野」(平山 優 氏) ○ 新規事業の開始 学校訪問出前講座 イオンモール利用事業 市民ギャラリー活用事業	○ 市長を囲む文化懇談会 11 月 25 日 ○ 交流会(笠間市文化協会) 10 月 10 日 ○ 第 22 回 両毛五市民謡民舞交流大会 (葛生あくとプラザ) 11 月 23 日 ○ 市長を囲む文化懇談会 11 月 27 日 ○ 交流会(上田市文化芸術協会) 10 月 7 日 ○ 第 23 回 両毛五市民謡民舞交流大会(佐野市文化会館)

年 度	主な活動内容	表彰・トピックス・他文化団体との交流
平成 29 年 (2017 年) ～ 令和 2 年 (2020 年)	○新規事業拡大 小・中学校向け出前講座（茶道体験、論語） イオンモール利用事業 9 月 16 日 市民ギャラリー活用事業 展示、演奏会  	○柳 誠 氏 栃木県伝統工芸士に認定 ○下野市文化協会と交流会（佐野市） 8 月 31 日 ○第 42 回 栃木県文化振興大会（佐野市文化会館） 1 月 27 日 
第 4 代会長 青木 勇	○第 7 回 佐野市文化振興大会 2 月 16 日 文化賞 田沼 清 氏 講演「天気予報の楽しみ方・活かし方」(斉田季実治 氏(気象予報士)) ○佐野市へ豪雨災害義援金贈呈 ○文化協会ホームページ開設	○飯田景月 氏 文部科学大臣表彰 ○第 21 回 両毛五市美術展（佐野市文化会館） 12 月 5 日～9 日
	○佐野市へ台風 19 号災害義援金贈呈	○柳 誠 氏 旭日双光章受章 ○第 27 回 両毛五市吟詠剣詩舞交流大会（葛生あくとプラザ） 11 月 24 日
	○令和 2 年度 佐野市文化協会表彰式 3 月 18 日 文化賞 柳 誠 氏 飯田景月 氏 ○佐野ケーブルテレビによる放映（無観客公演） ○新型コロナ感染拡大により文化活動の自粛	
令和 3 年～ (2021 年)	○文化協会活動紹介ビデオ制作（コロナ禍対応） ○「さの文化」に新コーナー 「佐野の文化人」「佐野の名所・旧跡案内」 ○令和 3 年度 佐野市文化協会表彰式 3 月 25 日 文化賞 青木 勇 氏 ○第 8 回 佐野市文化振興大会 2 月 18 日 講演「文化活動の不易流行」(田沼 清 氏)  	○安原高次 氏 瑞宝双光章受章 ○田沼 清 氏 栃木県功労賞受賞 ○第 45 回 栃木県文化振興大会（中止）
第 5 代会長 廣瀬 裕	○文化協会活性化委員会設置 ～課題と対応について議論	
	○文化協会だより発行	○第 28 回 両毛五市民謡民舞交流大会（佐野市文化会館） 12 月 9 日
	○さの文化の祭典（合同文化祭） 2 月 23 日～25 日 	○第 26 回 両毛五市美術展（佐野市中央公民館） 12 月 4 日～8 日

芸術文化ふれあい事業

平成 28 年より新しく 3 事業を開始しました。

学校訪問出前講座

小学校に直接出向いて子供たちに伝統文化である茶道や華道、民謡にふれあう機会を増やし、文化の担い手を育てる取り組みです。論語の講座なども行いました。

イオンモール利用事業

イオン佐野新都市店のセントラルコートをお借りして、ステージ発表や作品展などを行っています。

令和 6 年度はオカリナ演奏、日本舞踊、箏曲演奏、似顔絵コーナーなどで多くの方に楽しんでいただきました。この他、市民ギャラリー活用事業を行っています。

訃報

前佐野市文化協会顧問

飯田真二氏 ご逝去



令和 7 年 1 月 29 日、佐野市文化協会顧問の飯田真二氏が逝去されました。

氏は旧田沼町文化協会では会長として、また平成 17 年市町の合併により統合した佐野市文化協会では副会長、顧問を歴任され多大な貢献をされました。ここに氏の生前のご功績に感謝するとともに心からご冥福をお祈りいたします。

（佐野市文化協会 廣瀬 裕）

わたしたちの文化活動

各部門の活動をご紹介します。
ただ今、会員募集中です。



華道 生け花の魅力



今年度の市民文化祭華道展は、文化会館がリニューアル工事で休館になったため、市役所1階の市民活動スペースで4月20日・21日開かれました。初めての場所でしたが役員の協力体制で設営が進み、6流派40名の出瓶となりました。各々が工夫を凝らし季節感あふれる力作ばかり。作品からはお花への愛情が伝わってきて感動を味わうことができました。

また市役所ロビーに各流派が交代で花を生けています。多くの方々に見ていただき『生け花の魅力』を伝えてい

ければと思います。

(市川一桂)

手芸 余暇を楽しむ針仕事

昨年の2月、佐野市文化会館に於いて、久しぶりの作品展が行われました。会員一同コロナ禍の余暇を過ごし、針仕事に専念、新作にチャレンジしました。

人生平等に歳をとると言われますが、いざ高齢になりますと、心も、身体も思うようにはいきません。

私もそれなりに、皆様方の協力を得ながら、40年この仕事に携わってまいりました。残り少ない大切な時間を、もう少し楽しみ「スローライフ」で前進のみ。

若い人達と佐野の文化を育んでいくのならなあーと思う今日この頃です。
(上岡京)

洋舞フラ 笑顔を届けたい

癒しの音楽と共にフラを踊る。フラは奥深く、曲にはひとつひとつのストーリーがあり、その意味を理解しイメージを抱き指先に思いを込めて踊ります。市民文化祭では、華やいだステージと会場が一体となり、踊る喜びが増し幸せな気持ちになります。フラは素

直な心や仲間を思いやるアロハの心を養う場でもあります。これからもフラ部門(22団体)は、ひとつの家族として仲間どうしの交流を重ね、一人一人の士気を高めていくことで、ゆくゆくは活気ある明るい町づくりに繋げていけるものと確信しております。私たち家族は「和と輪」を繋ぎ重ね、今後も目標に向かって励みながらフラの楽しさ・魅力を発信してまいります。

(篠崎久江)



音楽 佐野市小学校 バンド育成会



平成20年、佐野市内の学生の音楽活動を支援するために発足。①小中学校又は団体の吹奏楽部員への技能向上のための指導講習や指導者支援。②アンサンブルフェスティバル(今年で32回目)の主催運営。という二つの事業を柱に活動を続けている。

支援するために発足。①小中学校又は団体の吹奏楽部員への技能向上のための指導講習や指導者支援。②アンサンブルフェスティバル(今年で32回目)の主催運営。という二つの事業を柱に活動を続けている。

昨年度、文化協会に加盟し、力を入れていたことは、廃部によって道を閉ざされた楽器好きの子どもたちの受け皿になること。現在「城北JrWH」では、子どもたちが生き生きと活動している。

(山根一也)

文芸 あそ野短歌会

第20回佐野市民文化祭短歌会を令和6年11月15日午後、佐野市民ギャラリーにて開催致しました。その折の短歌が左記となります。

この夏の炎暑にめげずコスモスの花は咲きたり人待ち顔に

松崎しげ

受診する妻に添う夫を垣間見る物静かなる老いもよきかな

大河原ミキ子

どこからか金木犀の香る路地下校の子らはのぞきて通る

遠藤満子

故里を離れし我に老い母の縫いくれし浴衣は大きな針目

田所徳子

フィールドを蹴って空へと跳ねる君母の声援その背に届け

新里みどり

月例歌会は第三金曜日の午後、行っております。

(原田靖子)

歴史研究

第40回安蘇の風土と歴史講座開催



安蘇史談会・佐野市文化協会主催の「第40回安蘇の風土と歴史」を佐野市中央公民館で開催しました。第1回「足利一門とは誰か」新田氏をめぐる虚像と

実像」第2回「将門伝説と古代東国の争乱」第3回「堀田正敦の佐野藩再興と城付領の形成」第4回「佐野常民・常羽父子による唐澤山神社創建と唐沢ボーイスカウトの誕生」を開催しました。

今回は第40回記念講演ということで幅広い広報活動が功を奏してか、過去最大の延べ556名の方々に聞いて頂けることができました。これを機会により一層郷土史に興味を持ってくださる方々が増えればと考えております。猛暑の中でのご参加ありがとうございました。(大川圭吾)

工芸 第20回佐野市文化祭工芸展にて

10月12日～14日迄、どまんなかた



「懐かしい」会場にあちらこちらで歓声があがりました。今年のテーマは「昭和レトロ」。昔の写真に言葉やイラストを重ねた作品が並びました。11月8日から3日間市民ギャラリーでパソコン部門の作品展が開催されました。

パソコン

市民文化祭 (パソコン部門)

ぬま大ホールにて文化祭を開催いたし大勢のお客様にご来場していただきました。日頃の力をこめて作った作品が会場いっぱいに満ちていました。今回は20周年目とあって沢山の方々に参加していただき、ご協力いただき有難うございました。今回、切り絵の会が初めて参加してくださり、その切り絵には凄く感動いたしました。これを機に市民の皆様方のご参加ご来場を心よりお待ちしております。(柳誠)



舞邦

第20回市民文化祭・邦舞部門開催



日に日に秋の深まりを感じる11月2日、本年は佐野市文化会館の改修工事の為、葛生あくとプラザでの開催

会場には昔の鉄製の扇風機も持ち込まれ、羽を回しながら昭和の雰囲気を出し。テーマ以外にもイラストや写真エッセイなども展示され、見応えのある作品展となりました。また、来場者への御礼として、今年も可愛らしい小物を用意させていただきました。ご来場ありがとうございました。(小山 武)

「懐かしい」会場のあちらこちらで歓声があがりました。今年のテーマは「昭和レトロ」。昔の写真に言葉やイラストを重ねた作品が並びました。11月8日から3日間市民ギャラリーでパソコン部門の作品展が開催されました。

(三喜 英)

絵画

一年を振り返って

今年の文化祭は葛生あくとプラザになり、会場の設営に少し戸惑いはありましたが、スタッフや出品者のご協力で、盛大に終わる事が出来ました。

日本水彩画安足支部展は、たくさん作品の発表で見応えがありました。吉澤記念美術館での小品展もありました。新絵画同好会展では、油絵と絵手紙と紙工芸のコーナーで工夫された楽しい作品展でした。



佐野木よう会展は、油絵一色で迫力がありました。それぞれたくさんのご来場をいただき次への活力になりました。(大阿久則子)

吟詠剣詩舞

吟詠剣詩舞の活動報告

令和6年6月23日(日)第20回佐野市民文化祭、11月24日(日)第30回両毛五市吟詠剣詩舞交流大会と両大会とも節目となる記念大会に参加できた



事を大変光榮に
思っております。
これもひとえに
諸先生方、会員
の皆様のご尽力
を頂いてのこと
と感謝申し上げ
ます。

吟詠剣詩舞道は、漢詩や和歌などを
吟じたり、舞ったりする伝統芸道です。
観客の心に残る作品をより一層、吟じ、
舞いたいと会員ひとりひとりが日々のお稽古に励んでおります。(土橋扇有)

書道 筆の魅力を味わって

佐野市民文化祭書道展が、11月30日
(土)、12月1日(日)の2日間佐野市
中央公民館にて開催されました。

漢字、かな、調和体、篆刻と幅広い
作品が百十点展示されました。

書は、白と黒の芸術です。筆の強弱
や線の太さ、文字の大小で白の空間が
変わります。そこに筆の魅力があるの
ではないでしょうか。

今年は、大河ドラマ「光る君へ」で
日本の伝統文化「かな」の美しさや柔
らかさが印象に残り心豊かになった方
も多かったと思います。

昨今、日常生活が機械に頼る日々が
多くなりました。一時でも、ご自分の
意が入った筆の魅力を味わってみては
いかがですか…。(飯田景月)

邦楽 和の心地よさを…

11月17日(日)、「邦楽と詩舞の会」
を葛生あくとプラザで開催しました。
明るいエントランス、程よい広さの客
席、広くて使い勝手のよい楽屋…。と
ても素敵なホールです。

邦楽や詩舞は日常から遠いもののよ
うに感じるかもしれませんが、実際に
見て聴いて触れてみると、きれいで格
好良くて意外にやさしい(?)もので
す。私たちは文化祭のみならず、様々
な場面で活動しています。見かけた折
には是非、耳を傾けてみてください。

次回は令和7年11月2日(日) 葛生
あくとプラザで開催予定です。心に響
く曲を沢山用意してご来場をお待ちし
ています。(古橋美紀悦)

写真 第20回佐野市民 文化祭 写真展



佐野市民文化
祭が、12月13日
(金)から12月15
日(日)、3日間
佐野市役所市民活
動スペースにて開
催されました。
第1部「審査部
門」56点、第2部

「特別出品」4点。「非審査」二人の
審査員の方に選別して頂き、文化祭
賞、準文化祭賞、各1点、奨励賞3点
入選20点、計25点魅力ある作品でし
た。その中にスマホでの作品があり、
すばらしく感動を受けました。
昨今スマホに頼る日々が多くなり、
ひとときでも自分の気に入った風景、
スナップの魅力を感じた作品を、お待
ちしております。(斎地和男)

洋舞 A 5年ぶりの 合同開催

5月26日(日)、
葛生あくとプラ
ザ大ホールに於
いて、第20回佐
野市民文化祭洋
舞A部門を開催
いたしました。



コロナ禍前の令
和1年度から、
5年ぶりとなる2団体同日合同開催と
なりました。サン・セレッソバレエス
タジオのフラメンコ、クラシックバレ
エ作品、クラシックバレエアカデミー
S.O.C.のクラシックバレエ、コンテン
ポラリー作品で、2時間の熱気溢れる
ステージをお送りする事ができました。
規制もなく、たくさんの皆様に観に来
ていただき、久しぶりに舞台も客席も
とても華やかな文化祭でした。(藤田真砂子)

茶道 一服に心をこめて



4月21日、
佐野市民文
化祭茶会が開
催されました。
例年、春は佐

野市文化会館で行っておりますが、改
修工事の為、会場を城山記念館に移し
て開催致しました。

二席の茶席の他にホールに呈茶席を
設け、待つ時間が短くなるように新緑
を見ながら一服を楽しんで頂きました。
昨今の世の情勢に憂えることが多い
中、心穏やかにひとときを過ごしてい
ただこうと茶道部会員で心を込めてお
もてなし致しました。

沢山のお客様にお越し頂き感謝申し
上げます。(平林宗栄)

演劇 Our Drama

私がさの演劇塾に入って9ヶ月が過
ぎようとしています。初めて稽古に
参加した際、団員の方が明るく迎え
てくださったのを今でも覚えていま
す。Afternoon 小嘶や15回公演に向け
て日々練習を積み重ねてきました。

Afternoon 小嘶は動きが少ない分一
つ一つの言葉に気持ちを込める練習

を行い、本番では多くの観客が訪れ、最高の演技ができました。

延期になっていました第15回公演が4月18・19日に決定しました。さの演劇塾一同、最高の演劇ができるように頑張ります。

(東海林元義)



謡歌

第20回秋の文化祭を
終えて(田沼歌謡愛好会)

令和6年12月15日、田沼中央公民館にて10時より発表会を行いました。ご来賓の金子市長、横田県議他よりご祝辞を頂戴した後、ご来賓の方も一緒によさこい踊りを披露。

午前の部は29番で終了し、楽しい昼食の後は午後の部を開始。73名の方が自慢の喉を披露し、最後は各支部代表10組のデュエットで楽しい一日を締めくくりました。

(須藤澄男)



両毛五市文化協会交流事業

足利・桐生・太田・館林・佐野市の文化協会では、毎年美術展や民謡民舞交流大会、吟詠剣詩舞交流大会を行っています。佐野市では昨年度に民謡民舞交流大会、今年度は美術展を開催しました。美術展は佐野市中央公民館で開催。書道・工芸・写真・絵画の分野で各市の優れた作品が展示され、市内外から約500名の方に鑑賞いただきました。



第48回栃木県文化振興大会

令和7年1月31日に栃木市で行われ、佐野市から33名が出席しました。

令和6年度の受賞

○文化選奨

平澤 登 氏 (竹工芸)

○文化奨励賞

井口大輔 氏 (陶芸)

式典の後「栃木市・壬生町時間の旅」と題した演目が披露されました。作品展も同時に開催されておりました。

トピックニュース

協会にゆかりのある皆様のご活躍についてお知らせします。各分野での輝かしい活動と実績に敬意を表します。

(敬称略)

○第78回栃木県芸術祭美術展

書道部門 入選

青木陽山 桑子暉永

中村晃雅 林 唐華

藤掛恵美子 吉田暉月

洋画部門 入選 小竹 昇

写真部門 入選 島田 功

民謡部門 芸術祭賞

附田深雪

○第100回白日会展

会員推挙 岩崎喜美子

○第26回秋耕展

入選 斎地和男

受賞おめでとうございます。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

佐野の文化人

大川 圭吾さん

会員の大川圭吾氏が、令和6年11月20日に元佐野市議の功績により旭日双光章を叙勲されました。

大川氏は、佐野市議在職中は、須永元などに関することを市議会でも何回も質問するなど文化議員として活躍されました。

大川氏が所属している安蘇史談会は、佐野地方の郷土史を調査・研究し郷土史の普及を図っている団体ですが、大川氏は昭和59年の設立メンバーの一人でもあります。

大川氏は市議会議員を引退後、当会の会報『史談』に、須永文庫や地元鐘塚町の歴史などを積極的に投稿しています。

本年7月には安蘇史談会歴史講座の講師を務めます。佐野市文化協会での活躍も多いに期待できます。(海老原脩治)



コラム

黄金の釘

相談役顧問 田沼 清

与謝野晶子に次の歌がある。
劫初よりつくりいとなむ殿堂に

われも黄金の釘ひとつ打つ

大昔から営々として築き上げてきた和歌の殿堂に私も黄金の釘をひとつ打ち込んだ、という歌意である。歌壇に与えた鮮烈な新風を、黄金の釘を打つたと自ら誇り高く詠んでいる。歌人としての確信に満ちた自負が表れている。

芸術・文化においては、誰しも自己の作品に対し気概と自負をもっている。黄金の釘という輝かしい言葉ではないかもしれないが、言葉には出さなくても心には秘めた闘志がある。

これは芸術・文化だけに限らない。仕事でも日々の生活でも、我々の人生には気概と自負は必要なのである。無意識のうちにもそれが生きる力になっている。晶子の歌は、人生全般に通じるかのような高らかな宣言である。

ところで、黄金の釘の歌が載った歌集「草の夢」は、晶子が尊敬する森鷗外に捧げられた。その隅外には次の歌がある。

我足の跡かとぞ思ふ世々を歴て

踏み窪めたる石のきざし

石段の窪みを見ると自分の足跡かと思う、と歌っている。足跡とは足跡のこと、自らの足跡をふり返っている。地味ではあるが強い自負が感じられる。

佐野市文化協会も新たに発足してから二十年になった。従来の足跡を検証し、佐野市の文化の殿堂に煌めく黄金の釘を打ち込むよう期待している。

コラム

新生佐野市文化協会の生い立ち

相談役顧問 青木 勇

時は、平成の大合併に向けて1市2町（旧佐野市、田沼町、葛生町）が合併作業を開始し、それに呼応するように1市2町の文化協会も合併の方法等を協議するため会合を重ね、新佐野市の誕生から1か月遅れの平成17年4月1日に「新生佐野市文化協会」がスタートしました。この合併では、新佐野市と同様に旧1市2町の文化協会も解散し、一つの文化協会として発足しましたが、ここに至るまでには会の消滅など想像を超える反発もあり、この難関を乗り越えられたのは、勅使川原素山氏（初代佐野市文化協会会長）の文化に対する熱い情熱と果敢な指導力と実行力があつたからこそ、現在の統合された文化協会が存在していると思います。近隣の市では、統合ができず従来の文化協会がそのまま存続し連合体組織で二重構造での文化活動を行っている団体もあります。

また、勅使川原会長の協会運営の構想により、正副会長の任期を4年とし、協会役員再任によるマンネリ化などの弊害を防ぐため、常に時代にマッチした斬新な考え方を取り入れる役員態勢を導入し、各々の個性を生かした運営で現在に至っています。

しかし、会員の高齢化や趣味の多様化など社会情勢の変化により平成20年度の入会団体数131団体、会員数2,303人をピークに減少の一途を辿っております。こんな混迷な時こそ現正副会長の英知を結集して慣例にとらわれず、時代に呼応した斬新な取り組みによりV字回復を期待しているところです。

佐野の名所・旧跡案内

旧別格官幣社

第4回

唐澤山神社の創建

佐野市富士町に位置する唐澤山神社は、平安時代の武将藤原秀郷を祭神に1982年（明治16）10月、旧唐沢山城本丸跡地に創建されました。藤原秀郷は、940年（天慶3）に当時の坂東を武力制圧し京の朝廷を震撼させた平将門の乱に勝利し、将門の首を京に送り届けさせた功績により、朝廷より従四位下の位階と下野守、武蔵守（国司の長官）の官職を得ました。

秀郷流藤原姓足利有綱の嫡男で源頼朝の御家人佐野基綱始祖とする佐野氏は、戦国時代は唐沢山城を拠点に勢力を張りましたが、歴史の濁流に翻弄され紆余曲折を経て徳川将軍家の旗本と成り明治維新を迎えます。東京での生活が窮地に陥った旧旗本佐野家を保護する為に旧領の地に呼び寄せた旧臣・縁故者等は、1880年（明治13）11月秀郷の霊廟を唐沢山城本丸跡地に建設する目的で東明会を組織し、翌月同会幹部3人で時の大蔵卿佐野常民を東京の私邸に訪ね、持参した系図と常民家の系図が符合し、先祖の墳墓が下野、

上野にあると知っていたこと等も重なり、常民はその場で賛同したと言います。

明治政府高官の佐野常民が動き出した事により、明治初年より停滞した秀郷霊廟建設は一気に動き出し、明治16年に初期の唐澤山神社が竣工しました。また、朝廷を謀反人将門から守ったとする故藤原秀郷に従三位が追贈され、朝敵から朝廷を護った功臣を祀る別格官幣社に加列を願う常民等は、三条実美、伊藤博文、旧佐賀藩時代からの知人大隈重信等政府要人にも熱心に働きかけた結果、1890年（明治23）11月、唐澤山神社は別格官幣社に列せられます。

佐野常羽は、1902年（明治35）12月に父常民が逝去すると第2代東明会総裁となり、海軍士官勤務の傍ら別格官幣社の社格に相応しい社殿の造り替えに奔走し地元民の協力も得て、1910年（明治43）10月現在の唐澤山神社が落成しました。大正11年には、唐澤義勇少年団（ボーイスカウト）をつくりました。

（大高八三郎）



令和6年度 佐野市文化協会加盟団体名簿

< 絵画 >

日本水彩画会安足支部佐野地区会
美術愛好会
新・絵画同好会
佐野木よう会

<丁禁>

丸山人形工芸倶楽部
絵手紙みちくさ
トールペイント木精会

※佐野きりえ協会

<手芸>

パッチワーク藍好会 キルトの会
パッチワーク藍の会

＜書道＞

佐野書道連盟
両毛書道会
四家書院
景月書院
書道研究 竹心会 竹雅庵
佐野篆会

<写直>

全日本写真連盟 佐野支部
佐野写遊

<音樂>

レモンコーラス
佐野吹奏楽団
混声合唱団 コール・エッコ
コール・アザレア
佐野市民合唱団“Voice”
フルートアンサンブルパスピエ
オカリナ愛好会・田沼
きらくな音楽会
女声コーラス田沼
コール・ポプリ
パセリウインドオーケストラ
インダストリーブラスアンサンブル
佐野少年少女合唱団 ♪ dolce ♪

佐野市小学校バンド育成会
フルートアンサンブル「フルール・アミー」

<邦楽>

箏曲 琴声会
 祥こう流 寿楓会
 箏曲 藤絃会
 長唄 瑠璃の會
 祥こう流 祥麗会

<洋舞 A>

クラシカルバレエアカデミー S.O.U クラシカルバレエ佐野
サンヤレッソ バレエ&スペイン舞踊スタジオ

<洋舞フラ>

フラ アロハ
ククイ フラ プルメリア
ククイ フラ ハイビスカス
ククイ フラ モキハナ
ククイ フラ スウィートハートアロハ
ククイ フラ ロケラニ

※ククイ フラ ラブリージンジャー
アロハ マウロア モアナ
アロハ マウロア ノアノア
アロハ マウロア ハウオリ
アロハ マウロア ブメハナ
アロハ マウロア マカラプア
スカイブルーアロハ ホワイトブルメリア
スカイブルーアロハ ラウレア
ホアロハ フラ ジンジャー
ホアロハ フラ ケニケニ
ホアロハ フラ オルオル
ホアロハ フラ レファ
ホアロハ フラ マラエ
ホアロハ フラ リコリコ
ホアロハ フラ モハラ
ナ プア ハワイ
ポーマイ フラ レア プリティマミー

<邦舞>

英佐会

花柳瀧三郎一門会
緋芙巳会
若柳流幸扇会
あおい会

＜文芸＞

あそ野短歌会

<茶華道>

佐野市茶華道協会 茶道部
佐野市茶華道協会 華道部

<民謡>

勇峰会
喜美英会

＜吟詠剣詩舞＞

佐野吟詠剣詩舞道協議会

＜歷史研究＞

安蘇史談会
秘宝・郷土文化を学ぶ会
佐野乾山顕彰会

＜歌謡＞

田沼歌謡愛好会
佐野カラオケ愛好会

< 演劇 >

その演劇熟

<パソコン>

佐野はそこ、倶楽部

(順不同)

※印は令和6年度に新しく加入した団体です。益々のご活躍を期待しております。

名譽會長	金子裕	常任理事	淺野良一
相談役顧問	田沼清	常任理事	藤井謙一
相談役顧問	青木勇	常任理事	吉本義人
顧問	菊池宏行	常任理事	若林秀真
顧問	津布久貞夫	常任理事	矢澤敦子
顧問	飯田真二	常任理事	荒井宗佳
參與	井川克彦	常任理事	大高八三郎
參與	塚田良雄	常任理事	大竹汎泉
參與	厚木健志	常任理事	二代目 勇峰
參與	柄澤晃一	常任理事	谷 操
參與	高橋利彰	常任理事	永島 由江
參與	安原高次	常任理事	廣瀬 裕
參與	若柳希京	理事	小山 武
參與	柳 誠	理事	村田 安日
參與	飯田景月	理事	岡安 祐植
參與	拜崎宗幸	理事	齋地 和男
參與	野尻真弓	理事	荒井 宗佳
會長	廣瀬 裕	理事	大高八三郎
副會長	海老原脩治	理事	二代目 勇峰
副會長	小山 武	理事	谷 操
副會長	村田 安日	理事	永島 由江
副會長	茂呂朝花	理事	北林 良子
副會長	岡安 祐璃	理事	大芦 芳洲
會計	廣瀬 惠子	理事	藤田 恭子
會計	若柳 緑	理事	金井千代子
監事	柳田 昂雲	理事	原田 靖子
監事	齋地 和男	理事	金子 玲月
監事	諏訪 悠崖	理事	須藤 澄男
事務局長	小山 武	理事	大金 春楓
常任理事	川嶋 嘉一	理事	西川由美巳

令和6年度
佐野市文化協会役員

(令和6年4月1日現在)

令和6年度(令和7年3月現在)

賛助会員紹介

本会へのご支援ありがとうございます。

ご協力いただきました会費は、当協会の大切な活動費として、文化の振興に有意義に活用させていただいております。

今後ともご指導、ご支援の程よろしく申し上げます。



認定こども園 愛育幼稚園
青木 勇
(株)青木建設 代表取締役 青木 安男
青村 孝風
(有)秋野印刷
監事 あさひ 山崎 好一
アスタリスク・ミュージック 小山 洋子
安蘇印刷(株)
安蘇重工(株)
荒井 宗佳
安藤 儀一
飯田 景月
飯田産業(有)
市川 一桂
犬伏とみや 三富 良子
岩崎喜美子
エヌケーケー(株) 代表取締役 田部井盛道
海老原脩治
遠藤紫芳庵
遠藤 節仙
大阿久則子
大川 圭吾
(株)扇屋 石倉 大
大竹 洵泉
大橋 宗加
岡安 祐璃
小倉 光雄
小関 清泉
落合 宗法

片山 弘美
加藤米菓本店
金井千代子
金子 玲月
亀田 清
川島 紫紅
(株)河西
菊澤 洋之
黒澤 宗光
興福寺 吉留 隆道
小熊勝一郎
小熊 ナヲ
(有)ゴミタ印刷
小山 武
佐藤 宗陽
佐野ケーブルテレビ(株)
佐野写遊
佐野商工会議所
佐野東石美術館
佐野ユネスコ協会
(株)佐野ラーメン本舗 上岡商店 上岡 一雄
篠崎貸衣裳店
島田 スミ
島田 文男
(株)秋栄堂
書道研究 芳洲書院 大芦芳洲
(株)ステップぱーとなー佐野
諏訪 悠崖
関根真知子

関谷 理久
浅間神社
洗心幼稚園 認定こども園
惣宗寺 旭岡 靖人
早乙女 務
第一酒造(株)
大門 美翠
高橋 宗幸
武田 宗園
田中税理士法人
田沼歌謡愛好会
田沼 清
田村 宏司
社団法人常盤福祉会
栃木県総合書道センター
(株)どまんなかたぬま
呑竜幼稚園
永井 宗響
長島医院 院長 長島 徹
永島 由江
新楽 峰春
西川由芙巳
拜崎 宗幸
畑 豊彦
花きち生花店
花柳瀧三郎一門会
平林 宗栄
廣瀬 恵子
廣瀬 裕

ファンテック(株)
福田建設(株)
藤掛恵美子
(有)ふみきり寿司
古橋 宗智
寶龍寺 小林 慧瞬
(株)ホクサン
星宮神社 新村 貢一
(株)ホテル乃館 代表取締役 尾花 栄
(株)ホテルサンルート佐野
(株)丸山工芸社
(有)味噌まんじゅう新井屋
三田 静穂
数妙音寺学園認定こども園 育成館幼稚園
村樫石灰工業(株)
村田 安旦
(株)茂木設計 代表取締役 茂木 弘司
森戸由美子
茂呂 朝花
矢澤 敦子
やじま印刷(株)
安原 高次
吉澤慎太郎
吉澤石灰工業(株)
ヨシダ電気工事(株)
若柳 緑
若柳美幸野
渡辺 梨静

(敬称略・順不同)

編集後記

本誌「さの文化」も会員の皆様をはじめとして、読者である佐野市民の皆様を支えられて無事に節目である20号を発行することができました。これも先輩方と関係者の努力の賜物だと思っています。内容についてですが、文化協会が年間に行った行事の報告と各加盟団体の活動報告に加え、佐野市の文化活動に関する事を記事にしました。さらに良くするためにも皆さま方のご意見をお願いします。

(大川圭吾)

編集委員

委員長
副委員長
委員

大川 圭吾
古橋 美紀悦
大阿久則子
北林 良子
斎地 和男
藤田真砂子
三喜 英
遠藤紫芳庵
牛込 勇峰
須藤 澄男
飯塚 正江
片山 明美
小暮 萌竹
廣瀬 裕
森田 和子
原田 靖子
市川 一桂
土橋 扇有
小山 武